

報道関係者各位

press release

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

2025 年 5 月 19 日
PRESS-25-17

ノボ ノルディスク ファーマ、「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」プログラムの中で最初のプロジェクトとなる「郡山市における糖尿病対策についての共同研究」の第四弾 成果論文を発表

2 型糖尿病のある人の治療中断理由に応じた、適切な治療再開の促し方が提示された

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 (代表取締役社長: キャスパー ブッカ マイルヴァン、本社: 東京都千代田区) は、ノボ ノルディスクがグローバルに展開する「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」※1 の日本で最初の取り組みとなる郡山市 (福島県) および福島県立医科大学とのプロジェクトの経過・進捗論文を、「International journal of Qualitative studies on Health and Well being」
<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/17482631.2025.2496181> に掲載したことをお知らせいたします。

2 型糖尿病患者の積極的な治療を促すためには、治療の継続要因だけでなく、治療を中断してしまった後に再び治療に戻るためのきっかけを明らかにすることが重要です。治療を中断したからといって「失敗」ではなく、再び治療に戻り、そこから新たなスタートを切ることができれば、病状を落ち着かせ、充実した人生を営んでいくことに繋がります。

今回の研究では、福島県郡山市に在住する 2 型糖尿病のある人のうち、治療を中断した後に再開した経験のある 13 名に対する対面式インタビュー調査を行い、「治療を中断した理由」と「その後に治療を再開した理由」とを質問しました。中断理由ごとに、何が治療再開のきっかけであったのかを紐づけて、語りから丁寧に整理しました。

その結果、以下の 4 つのパターンが明らかになりました。

- 経済的合理性パターン: 収入が限られているために医療費の捻出が厳しい、といった経済的な理由から治療を中断する。その後、自治体の提供する無料・低額健康診断をきっかけに、健康管理の重要性を強く認識したことで家計を見直し、医療費を確保するとともに、継続的な治療へと復帰するパターン。
- 能動的情報収集パターン: 標準治療の効果に疑問を覚え、メディアの健康情報を基に自分なりの治療法を模索する形で通院をやめ、治療を中断する。その後、定期健診などをきっかけに知った自分の血糖値をインターネットで検索し、危険性を自覚したことで、健康リスクに自ら気づき、治療を再開するパターン。
- 医療者—患者関係パターン: 医療者との相性やコミュニケーションの問題から治療が億劫に感じられるようになり、通院から足が遠のくことで治療中断する。その後、別の病気の治療等で出会った医療者の印象が良く、信頼関係を構築できたことから、治療を再開するパターン。
- 地域の医療専門家との持続的関係パターン: 仕事の多忙や、それに関連したモチベーションの低下から治療を中断する。その後、地域の医療専門家 (例: 保健師) が、強制的ではない形で粘り強く受診勧奨を行ったことで、徐々に気持ちが変わり、病院に行ってみようという行動変容に至る治療再開のパターン。

本論文は、ノボ ノルディスクがグローバルで展開する「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」プログラムとして、2018 年から福島県郡山市および公立大学法人福島県立医科大学 (医学部衛生学・予防医学講座) と産官学連携で取り組んでいる、「郡山市における糖尿病対策についての共同研究」の内容を論文化したものです。

本論文の責任著者である福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座の日高友郎 講師は、次のように述べています。「これまでの研究では、年齢・性別・職業などの大まかな要素に注目していたのに対し、今回の研究では、患者さん自身の感じ方や経験を重視して、治療再開のきっかけを調査しました。発見された 4 つのパターンから、無料・低額診断を糸口にしたリ、保健師の粘り強い働きかけが有効であったり、といった実践的な知見が得られました。さまざまな事情から、糖尿病の治療を中断してしまうことはあり得ます。患者さん自身も中断してしまったことを負い目のように感じてしまっているかもしれませんし、地域の医師や保健師の方も対応に悩んでいることがあるかもしれません。そのような場合でも諦める必要はなく、改善のための糸口があることを今回の結果は物語っています。本研究の成果が、地域における 2 型糖尿病の継続治療のための取り組みの参考となり、全国の患者ならびに社会全体の健康増進に繋がることを願っています。」

※1: 2014 年に「Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)」としてスタートした本プログラムは、2024 年に名称を「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」に変更しました。

「郡山市における糖尿病対策についての共同研究」について

本共同研究は、「郡山市を日本一健康な都市にする」という理念の下に、郡山市民の健康増進を図ることを目的として、2018 年 2 月 13 日に郡山市とノボ ノルディスクファーマが締結した「糖尿病対策に関する包括連携協定」に基づき、2018 年 8 月 1 日にデータ統計分析等に医学的助言や指導を得るため福島県立医科大学 (医学部衛生学・予防医学講座) と三者契約を締結し、同年 10 月より取り組みました。

本共同研究では、郡山市における糖尿病対策の実践的指針を見出すことを基本方針とし、糖尿病治療状況に影響を与える郡山市特有の社会、文化、環境要因を把握することが郡山市においてより効果的なアクションプランの作成につながり、ひいては糖尿病性腎症等の合併症の重症化予防に貢献するものと考え、糖尿病の治療中断に影響を及ぼす要因を探るとともに、15 地区の特性を知るための調査 (インタビュー調査、アンケート調査、データベース解析) を実施しました。詳細はウェブサイトをご覧ください。(<https://www.novonordisk.co.jp/sustainable-business/society/cities-changing-diabetes/koriyama-city-fukushima-cdd.html>)

「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」(旧称: Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)) について

「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」(以下 CBH) プログラムは、パートナーシップを通じて都市環境における深刻な慢性疾患を予防するための行動を推進する官民パートナーシッププログラムです。ノボ ノルディスクは、世界 50 都市以上において、予防に対するパートナーシップを構築し、意義のある行動を推進することを支援しています。この予防への取り組みを通じて、地域における健康格差を解消し、持続可能なヘルスケアシステムを構築することを目的としています。日本においては、2018 年から福島県郡山市、2021 年から千葉県旭市で CBH を実施しています。

本プログラムは、2024 年に名称を「Cities Changing Diabetes (都市に蔓延する糖尿病の克服)」から「まちが元気を創り出す ～Cities for Better Health～」に変更しました。

詳細はウェブサイトをご覧ください。(<https://www.novonordisk.co.jp/sustainable-business/society/cities-changing-diabetes.html>)

ノボ ノルディスクについて

ノボ ノルディスクは、1923 年創立のデンマークに本社を置く世界有数のヘルスケア企業です。私たちのパーパスは、糖尿病で培った知識や経験を基に、変革を推進し深刻な慢性疾患を克服することです。その目的達成に向け、科学的革新を見出し、医薬品へのアクセスを拡大するとともに、病気の予防ならびに最終的には根治を目指して取り組んでいます。ノボ ノルディスクは現在 80 カ国に約 77,400 人の社員を擁し、製品は約 170 カ国で販売されています。日本法人のノボ ノルディスクファーマ株式会社は 1980 年に設立されました。詳細はウェブサイトをご覧ください。(www.novonordisk.co.jp)